

社会教育推進フォーラム（2024/2/9） 事例発表③：家庭教育支援チーム



家庭教育支援チーム

愛知県の家庭教育支援の取組

- 1 稲沢市家庭教育支援チーム：「NPO法人 ふぁみりい・らぼ」の取組
- 2 愛知県の家庭教育支援の取組
 - 取組1 家庭教育支援チームとの交流
 - 取組2 子育てネットワークの育成
 - 取組3 市町村・保健福祉部局との連携

愛知県教育委員会あいちの学び推進課 主査 天野 拓夫
NPO法人 ふぁみりい・らぼ 代表 川口ゆかり

稲沢市家庭教育支援チーム:「NPO法人 ふぁみりい・らぼ」の取組

「社会で子どもを育てる」ことを目的とし、年代ごとの交流の場を設け、社会とのつながりをもてるよう活動を実施

0歳～未就学期

毎週水曜日 10時～12時
おもちゃを介した親子の
絆づくりと、お母さんの
こころの休憩室

◎おもちゃ図書館「むすび」
(稲沢市委託事業)



市子育て支援課
助産師
管理栄養士
市保健センター
など

6～18歳(学童期・思春期)

毎週火・木曜日 13時～17時
学校に苦手感をもつ子どもの
充電場所
多様な学びの提供
保護者の方の相談

◎フリースクール
「tetote」



市教育委員会学校教育課
障害児者相談支援事業所
医療機関
など

～39歳(～青年期)

毎月第2日曜日 14時～16時
不登校、引きこもり気味の
家庭の交流の場
食材提供やおやつ作りなど
外に出るきっかけにも

◎子ども若者食堂
「てとてプラス」



市福祉課
社会福祉協議会
子ども食堂支援団体
など

おもちゃ図書「むすび」

(左)貸出おもちゃで遊ぶ親子
(右)館内で遊ぶ様子



フリースクール「tetote」



おやつ作り



みんなでボードゲーム



電車に乗ってお出かけ

子ども若者食堂「てとてプラス」



(左)フードパントリー
(右)保護者の座談会



(QR)NPO法人ふぁみりい・らぼHP

愛知県の取組例①

家庭教育支援チームとの交流

<愛知県の家庭教育支援チームの状況>

- ・現在、18チームが登録
- ・NPOや市民サークルが自主的に立ち上げたチームが多い。



(QR)家庭教育支援
チーム活動紹介



<問題意識>

- 行政と家庭教育支援チームとの関係づくりができていないため、チームの活動を行政の施策に生かせていない。
- 登録のメリットを感じてもらえるような手立てが打てず、登録数が増加しない現状にある。



登録のメリット感を、登録チームや市町村にもたせることが必要

第1回愛知県家庭教育支援チーム交流会」の開催



つながりをつくりたいという思いを直筆の手紙で届ける

市民グループとの連携・協働を市町村と一緒にやって行く

13チーム、9市町村の担当者が参加

1 ポスターセッション
各チームの活動内容について意見交換を行った。

2 全体交流会
グループをつくり、「今取り組んでいること」について伝え合った。



(QR)交流会の報告

市民グループと行政が「顔の見える関係」としてつながる機会
家庭教育支援チームへの所属感・連帯感が生まれる機会

愛知県の取組例②

「愛知県子育てネットワーク」の育成

※平成7年度から、本制度を開始

愛知県が主催する「『親の育ち』家庭教育支援者養成講座」を修了した、家庭教育支援を行う地域ボランティアとしての「**称号**」

●県下で613名が登録(R6年1月現在)

R5養成講座に90名が受講 修了者のうち48名が新規登録

●登録者名簿を市町村に配布し、市町村での人材活用を依頼

県下の5地区で支部組織が自主的に作られ、子育てネットワークの連帯が図られている。

「愛知県子育てネットワーカー」の課題と取組

●登録数は増えてきているものの、活動の実態が把握できておらず、活動状況や子育てネットワーカーのニーズを汲み取ることができていない。

<取組 その1>

「子育てネットワーカー活動状況調査」の実施

アンケート回答数 : 177名 (全514名中 34%)

- ・地域活動を行っている : 95名 (回答者のうちの54%)
- ・活動を行っていない理由→活動の仕方が分からない : 31%



(QR)調査の結果

●登録者のフォローアップが必要

<取組 その2>

「子育てネットワーカーオンライン交流会」の実施

- ・各支部の代表ネットワーカーに本会を開催する趣旨を説明し、一緒になって企画・運営してもらえよう依頼



(QR)交流会ちらし

世代を越えたネットワーカー間のつながりをつくる

愛知県の取組例③

市町村・保健福祉部局との連携

「家庭教育・子育て支援でコラボレーション 市町村情報交換会」の開催

- テーマ① 社会教育部局と保健福祉部局との連携体制づくり
- テーマ② 行政と市民（地域の家庭教育・子育て支援者）との協働体制づくり

グループ交流会



全体交流会

参加者数 18市町村 全27人 ※全54市町村中
うち、保健福祉部局は11市町村が参加

テーマ① 社会教育部局と保健福祉部局との連携体制づくり

家庭教育支援と子育て支援の違いは？

家庭教育支援(文部科学省)

社会教育部局(家庭教育担当課)
教育的・予防的な事業

子育て支援(厚生労働省)

保健福祉部局(子育て支援担当課)
福祉的な事業

保健福祉部局の機能が大きくなり、
社会教育部局との境目が分かりにくい。

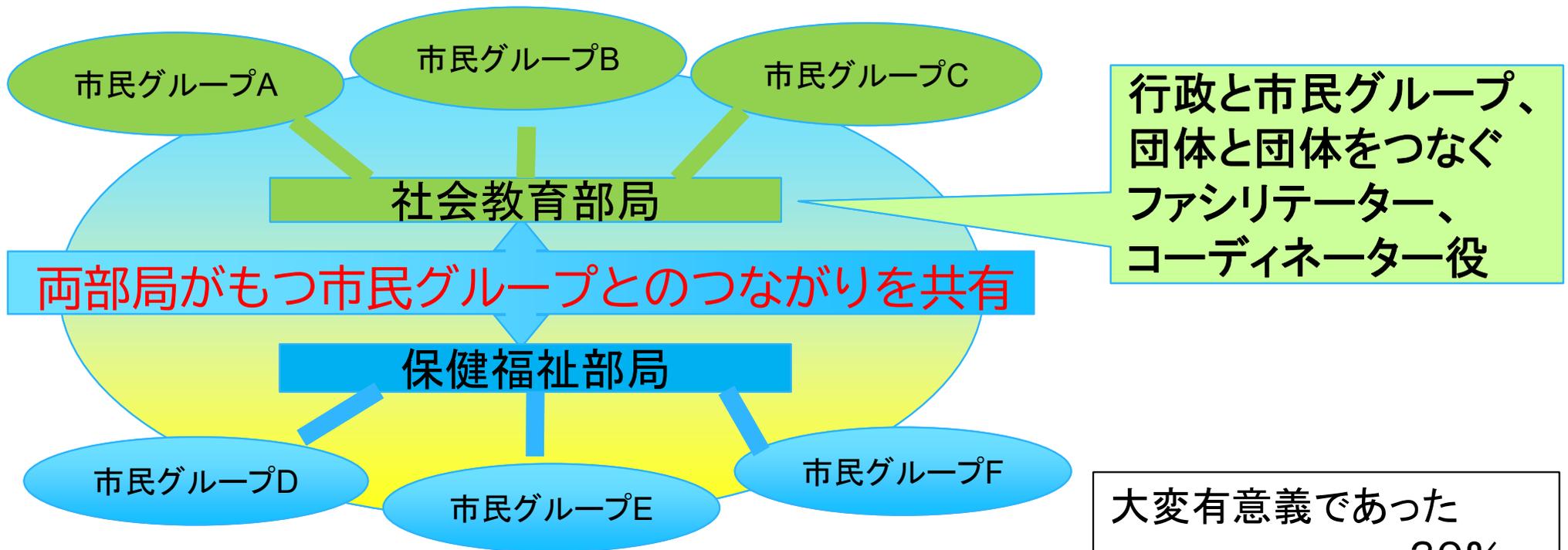
部局連携の重要性・情報共有の必要性

顔の見える関係づくり

県の基調提案の内容②

テーマ② 行政と市民（地域の家庭教育・子育て支援者）との協働体制づくり

市民グループとの協働体制づくりを図るためには



参加者の感想から、本会のテーマに対する問題意識を共有する第一歩の機会となった。

大変有意義であった 30%
有意義であった 60%

<参加者満足度アンケート結果>